

2022年ヒラメ稚魚分布密度調査結果（日本海）について

当研究所では日本海における天然ヒラメの稚魚分布密度調査を1980年から行っており、2022年は7月20日、8月4日、9月6日に桁網（水工研Ⅱ型）を用いてつがる市沖8点で調査を行いました（図1）。ヒラメの分布密度は桁網の漁獲効率を0.28とすると0-305尾/1,000m²の範囲にありました（表1）。採捕したヒラメの全長組成は7月20日に水深5mで30-39mm、10mで20-39mm、8月4日に水深5mと10mで40-49mm、9月6日に水深5mで50-59mm、10mで60-69mmが主体となっていました（図2）。水深別平均分布密度の最高値を着底指数とすると、2022年は120で、1980年以降の平均値147を下回る水準でした（図3）。

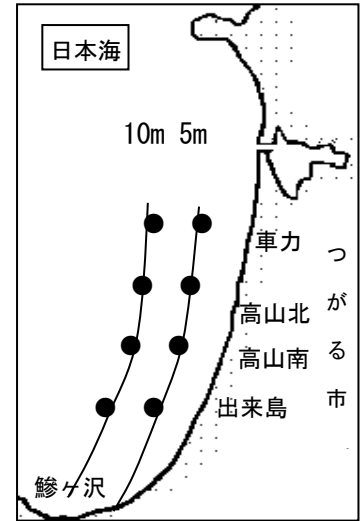


図1 調査地点

表1 ヒラメ稚魚分布密度

日本海										(個体/1,000m ²)	
調査月日/調査点	水深 5m				水深 10m				5m	10m	
	出来島	高山南	高山北	車力	出来島	高山南	高山北	車力	平均	平均	
2022.7.20	16	25	112	6	9	0	9	6	38	6	
2022.8.4	128	305	48	14	11	11	6	19	120	12	
2022.9.6	32	62	21	15	0	8	5	5	33	5	

* 桁網の漁獲効率を0.28として算出した。

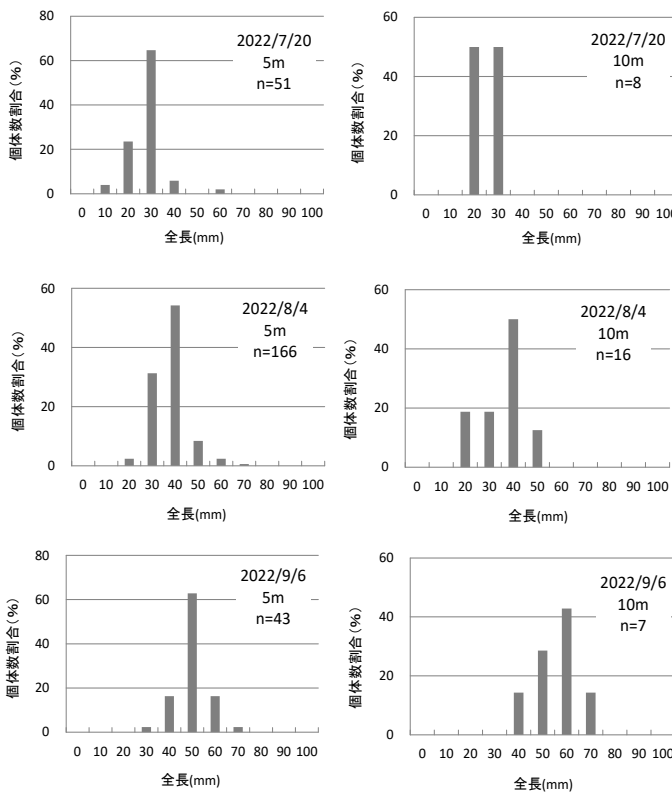


図2 採集したヒラメ稚魚の全長組成

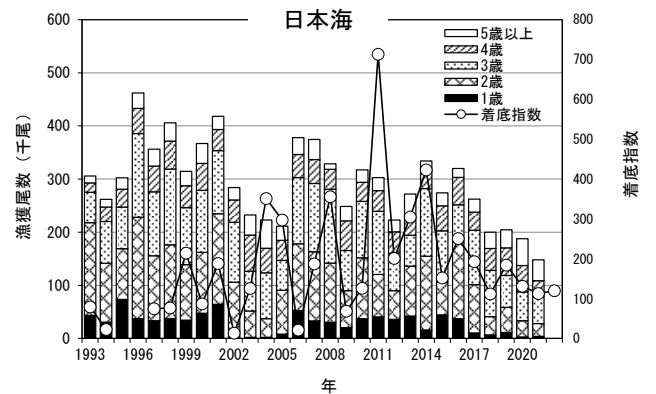


図3 日本海のヒラメ着底指数と年齢別漁獲尾数の推移